

横浜市立不動丸小学校 学校だより

令和6年1月31日



たいじゅ もり  
大樹の森

2月号



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



「生きる力」を育む

校長 山下 謙一郎

2月3日は「節分の日」ですが、実はこの「節分」、一年に4回あるということをご存じだったでしょうか？本来「節分」とは、季節の変わり目を指す言葉で、具体的には、一年間を24等分した二十四節気（にじゅうしせっき）のうち、「四立（しりゅう）」と呼ばれる立春・立夏・立秋・立冬の前日を指すのだそうです。四立とは「暦のうえで新しい季節がはじまる日」のことですが、今では立春の前日だけを「節分」と呼ぶようになりました。昔から立春とその前日である「節分」は、一年のうちでもとくに重要な日とされてきたそうで、それで、2月の「節分」のみが広く「節分」と呼ばれるようになったと言われています。日本人にとって「春」は一際大きい存在なのでしょう。

さて、不動丸小学校では今年度を含めて3年間、生活科・総合的な学習の時間を学校の重点研究として掲げ、各学年、クラスで試行錯誤を繰り返しながら取り組んできました。子どもたちが主体的に学ぼうとする姿勢を育むために、様々な活動や話し合いを通して、夢中になって取り組む姿を、これまで幾度となく垣間見ることができました。各クラスの活動の柱になるテーマは違えども、生き生きと子どもたちが学びに取り組む様子は本当に素晴らしいものです。あるクラスでは、「ゆるスポーツ」を学習材に、老若男女問わず誰もが楽しく気軽に取り組めるスポーツの開発を目指しクラス一体となって研究していました。スポーツが得意な人も苦手な人も一緒に楽しむ、これはこれからの時代に大切になってくることの一つとなるでしょう。また、あるクラスでは、地域の方々とともに木の「樹名板」を作ったり、地域の憩いの場づくりの計画に携わったりしながら、地域参画に取り組んできました。自分たちの住む地域を見つめ直し、この白根のまちを大切にしようとする気持ちが育まれてきていることをひしひしと感じます。

これらの学びの成果は、テストなどの点数で測ることはできませんが、これからの時代を生き抜いていく子どもたちにとって大事な経験であると考えます。自らが学ぼう、動こうとする主体的な学びは、「生きる力」につながるからです。大きな困難に直面したときに、自ら考え、乗り越えようとする「生きる力」こそ、未来を切り開く子どもたちに必要なことであろうと私たちは考え、これからも支援していきたいと思えます。